

# 突入と堂々たるスト2波第1

(千葉  
みなど)

日刊  
動労千葉

88.5.30

N2825

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）公衆（〇四七二）七二〇七

スト撲滅の「JR体制」をこころ破る。

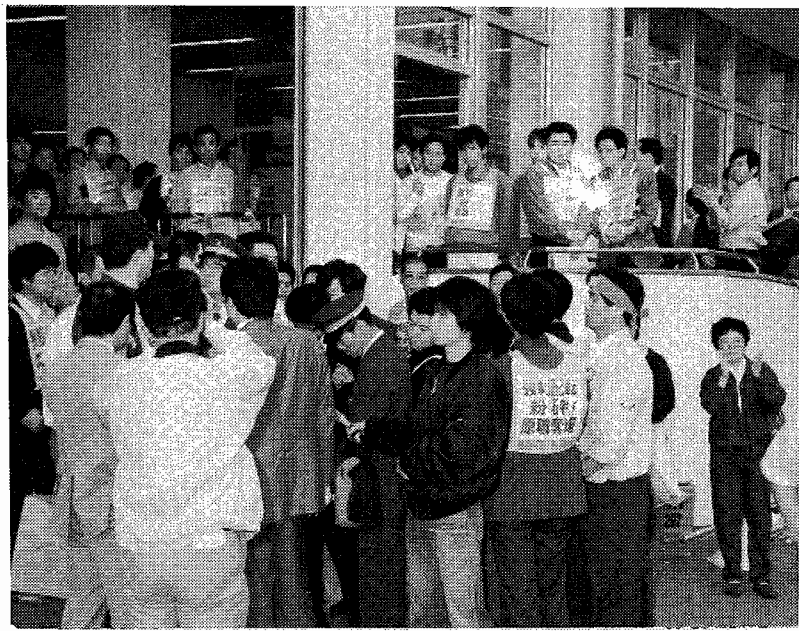
「五・一八千葉駅ストの勝利感」をみなぎらせ、「五・二〇亀戸駅ストでの権力への怒り」に燃える組合員の決起はとどまることを知らない。

五月二七日、スト突入を前にした千葉みなど駅に、次々と組合員が結集する。ただちに街頭宣伝にあわせてビラまきを貫徹。同時に万全のスト防衛体制をとる。

この日も権力・当局は、われわれの目の前に私服・機動隊およそ三百を配置、駅には職制を動員してスト圧殺を目論む。しかしこんなもので引下がる動労千葉ではない。「ストは労働者の権利だ。われわれこそ社会の主人公だ！」と結集した二二〇名の組合員の顔がそれを物語っている。

十八時、消耗しきった職制に対し、外山君が力強くスト突入を通告、売店はシャッターが締められ、その上に「スト決行中」の張り紙。スト拠点を二重、三重の組合員の垣根が防衛する。

当局はと言えば、「警告」には来たもののわれわれの激しい怒りの前に一言も発せず退散。ストは圧倒的勝利のうちに貫徹された。



ストを貫徹し千葉支社へ怒りのデモ

十九時、デモに出発。悪人・河野らが「組合脱退強要」を行った現場・JR千葉支社へ向け、夜空には動労旗がたなびき、デモ隊は怒りの声を町中に響かせ行進する。

支社前は、職制を後方に回し、権力が中庭を武装した警察車両と機動隊で埋め尽くしている。その異様な光景に、デモ隊の怒りは頂点に達した。われわれは、警察権力のスト圧殺を許さず、力強いシユプレヒコールで、当局・権力に怒りを叩きつけ、断固としてデモを貫徹した。

動労千葉は、いかなる弾圧にも屈せず、何度でもストを打ち抜く決意を固め、この日のたたかいをしめくくった。

日刊「動労千葉」五月二七日付、二八二二号は「二八二四号」の誤りでした。謹んでお詫びし、訂正致します。